



高齢者医療をめぐる

特定医療法人共和会 共和病院
副院長 谷口 正哲

ご承知の通り、日本の高齢化率は年々上昇しています。先日の報道では男性の4人に1人、女性の3人に1人が高齢者になっているとのことで、既にそこまで!と驚いた次第です。

高齢者が増えれば当然有病者(病気にかかっている方)は増え、しかもその比率は若年者に比べれば当然高くなるため、有病高齢者の絶対数は増加し続けています。入院治療が必要な高齢者も増加していることになり、対応する医療体制としては十分な入院ベッド施設の確保が必要になります。しかし国の医療政策は医療費抑制が最優先の目標であり、入院ベッド数は抑制・削減が求められています。更に入院治療の初期段階を担当する急性期病院には入院期間の短縮が求められていて「早すぎる退院・転院」や「早すぎる方針決定」が生じています。

当院では二つの内科病棟(合計80床)を運用しています。分類は「療養型病床」であり、入院対象は急性期・亜急性期の入院治療を終了後なおしばらくの入院治療が必要な方、在宅・施設入所中の方で管理・介護が困難になった方です。ほとんどの患者様が高齢者となります。

また当院では、在宅・施設入所中の方を対象に訪問診療も行っており、治療・介護の後半部分を担わせて頂いています。

当院での診療を約5年間担当させて頂いて感じることは、前述の医療政策による入院患者様の状態の変化です。1. 急性期病院が早期の退院を迫られているために治療が中断状態で転院されてくる患者様が増えました。例えば食事が摂れず胃瘻の作成が必要な場合、前医で作成がされないまま転院され当院で胃瘻を作成するが増加しています。2. 治療方針が転院後に変化する場合が増加しています。例えば終末期で積極的な治療は控えるとの情報で入院された患者様が必ずしも終末期とは言えず治療を行う場合があります。3. 急性期病院から自宅ないし施設に退院され、管理困難で当院に入院される場合も増えています。

2018年4月の診療報酬制度改定で、療養病床数の削減が強く勧められています。逆に増加するベッド需要に対して、当院は患者様の利益を第一に考え、現状の病床数を維持することで地域医療に貢献していきたいと考えております。



日本医療機能評価機構
認定シンボルマーク

第20回 共和病院 地域医療フォーラム

平成30年9月22日に第20回共和病院地域医療フォーラムを開催しました。今回のテーマは「やめられない行動へのアプローチ」として、当院と知多保健所、名古屋市南区障害者基幹相談支援センターの方々に参加して頂き、やめられない行動で困っていることについて意見交換を行うことを目的としました。



元 武俊氏
(共和病院 精神科医師)

まず第一部では、当院精神科の元医師から条件反射制御法（CRCT：Conditioned Reflex Control Technique）の基本と当院における治療対象の広がりについて講演がありました。CRCTは本人の意思に働きかけるのではなく、やめられない行動をパブロフの犬で有名な条件反射の連鎖と捉え、その条件反射をうまくコントロールして治療していくという方法で、従来のアルコール依存症の治療などの、やめられない行動の治療とは一線を画する方法であることが説明されました。また、CRCTはアルコール依存症の治療だけでなく、ギャンブル依存症や病的窃盗（クレプトマニア）など、やめられない行動に対する新たな治療として適応が広がっている説明もありました。

第二部では元医師と知多保健所の桑山陽子氏、名古屋市南区障害者基幹相談支援センターの儀保高雄氏を交えてパネルディスカッションが行われました。まず桑山氏からは、知多保健所で



当院オリジナルの
CRCTのマーク



会場のみならずからも、
様々なご質問をいただきました。

の取り組みについて説明して頂きました。地域でやめられない行動で困っている方とご家族は、結構な数がありますが、なかなか病院受診につながることが難しいことを説明され、このことは地域や病院を含めた今後の課題であると思いました。続いて、儀保氏からは障害者支援の業務と心構えを説明して頂きました。儀保氏のお話の中で、障害者の支援をする際に、「本人に上手に困って頂く」というお話が印象的でした。支援というと、どうしても本人が困らないように援助をするという視点になりがちですが、本人に上手に困って頂き、本人の自律性や自己肯定感を育むという視点は障害者支援において、とても重要な視点であるように感じられました。

続いて当院副院長の谷口医師を座長とし、演者と会場の方々も含めて意見交換が行われました。その中で印象的だったのは、やめられない行動で苦しんでいる方が病院受診をしたとしても、多くの場合、医師から本人の行動について怒られてしまい、そのことで本人の病院受診をさらに遠ざけてしまうことがあるとのことでした。しかし、CRCTでは本人の意思ではなく、条件反射の連鎖に働きかけるので、医師から意思が弱いと怒られることはなく、そのことが本人にとって非常に受容的に感じられたという話が印象的でした。このような面からもCRCTは、やめられない行動に対する治療として、新たな光を与える治療法であるように感じられました。

診療部 嶋本 正範



桑山 陽子氏
(知多保健所 健康支援課こころの健康推進グループ)



儀保 高雄氏
(名古屋市南区障害者基幹相談支援センター)

リレー コラム

武道と私

私が取得している資格の中で履歴書に書いたことがなく、人にもあまり話したことがない資格があります。空手道八級審査で頂いたものです。はちきゅう??=初心者=弱つちい、というイメージは実体をまさに表したものであり、わざわざ公言するまでもないことです。しかし、私には思い入れのある資格です。

武道を始めたのは、27歳の時でした。司馬遼太郎の「竜馬がゆく」は、当時もやもやしていた気持ちを吹き飛ばし、男は剣の道=剣道だという妄想をかきたてました。10年間、立っただけなら全日本クラス?と擲擧されながらも、四段を目指すところまで続けました。月日は流れ、再び転職が訪れました。かまけていた仕事がどうにもうまくいかない47歳。いつかはやってみたくと思っていた空手を始めました。小学生が数人と先生という小さな道場でした。初日、

小学生の一人が私を横目でちらっと見て「白帯!」と小声で言いました。いつの日にか、どこかで・・・と私は密かに誓いました(笑)。しばらくすると当面の目標であった小学生たちはやめて稽古は先生と二人っきりになってしまいました。先生は熱心に教えてくださいました。上段蹴りができるようになりたいと購入した開脚器はまさに拷問用の器具でした。汗と鼻水と痛みの2年間の思い出が八級の免状に詰まっています。人生はいつからでも始められる。力がないならないなりに、身体を使うことで前へ進める。武道との出会いは、55歳で理学療法士になるという目標につながっていきました。現在は、多くの方々に支えられながら仕事ができる日々を感謝の気持ちで過ごしています。

糸洲流空手道八級/剣道三段
補装具・介護予防認定理学療法士
深見 重夫

C-1病棟紹介



こんにちは! 2018年8月から病棟機能を変更しました、C-1病棟です!

以前は、認知症病棟として機能しておりましたが、今回は認知症病棟ではなく、精神療養病棟としてのスタートとなりました。開放病棟として運営しております。

再稼働したての今の病床数は20床と、こじんまりしたアットホームな病棟になっています。再稼働とはいえ、ハード面・ソフト面もほぼ0からのスタートだったので、1ヶ月以上前から着々と準備を進めました。

病棟の患者様は車椅子の方が殆どで、ベッド上生活の方もベッドごとホールに来て頂き、DVD鑑賞をしたり一緒に歌ったりし、また、お食事もできるだけホールで食べて頂くようにしています。身体合併症のある方もおられます

が、再稼働に際し、精神科・内科からの選りすぐりのスタッフが異動してきており、また、病棟担当のコメディカルも手厚く関わっているため、安心して療養していただいています。

ある患者様は、前病棟ではご本人の不安があって、何十年も病棟から出ることが出来ませんでした。C-1病棟の自動ドアが開いた向こうに売店が見える安心感からか、一緒におやつを買いに行くことが出来るようになりました。トイレも、多目的トイレが近くにあるお部屋に入っていたので、ポータブルトイレが手離せなかったのが嘘のように一切使用されなくなりました。

今回導入された、寝たまま入浴できる新品の寝浴で、皆さん気持ちよさそうな表情で入浴されています。「気持ちいい」「もっと入る」などお話しされています。

C-1病棟の理念「その人らしく生きることを共に考え、思いやりの心をもって、安心できる療養生活を支援します」を掲げて、日々の看護に精進しております。平日は、A・Bの2チームに分かれて看護を行なっています。チームで一緒に動くことは、お互いに刺激し合い学び合いながら、患者様に最適なケアを考えていくことができます。

まだまだ走り出したばかりのC-1病棟ですが、どんどん成長しておりますので、皆様、暖かく見守って下さいね。

C-1病棟 責任者 加藤 順子

編集後記



いつもWA!を読んでいただきありがとうございます。毎年当院では、文化祭として10月に「てんてん祭り」を開催しています。しかしここ数年、新館工事のため行なっていません。早く再開できることを楽しみにしています。

スポーツの秋・読書の秋・食欲の秋...、皆様の秋はどんな秋ですか? 今年、インフルエンザの流行が早いそうで、学校では9月から学級閉鎖がでていところもあるそうです。どうぞ、お体の調子を崩されることのないよう、充実した秋をお過ごし下さい。

広報誌委員 大脇 俊介

みんなでプラネタリウム



10月23日(火)に大府市役所多目的ホールで開催された「みんなでプラネタリウム」に参加してきました。この企画は1日限定の催し物で、一般社団法人「星つむぎの村」の“星空と宇宙を届けるプロジェクト”の一環の「出張プラネタリウム」でした。

すみれの丘入居者様、フリージア利用者様、当院入院患者様と職員で参加しました。一度に30人ほどが入れるドーム型バルーンの内側から星空を投影し、迫力ある映像と心地よいナレーションで参加した多くのみなさんが優しい気持ちに包まれました。参加された方の感想をいくつか紹介します。

- ・想像していたものよりも躍動感があって感動しました
- ・優しい音楽と語りでとても心地の良い時間でした

- ・生きていることが奇跡に感じ小さな事で悩んでいることがばからしく思え泣けてきました
- ・迫ってくる映像や星がすぐ目の前にあり面白くて感動した
- ・家族にも見てもらいたかった
- ・夢のような世界でした
- ・宇宙の大きさや自分の住んでいる地球の小ささに感動した
- ・つらい時は星をみようと思った
- ・四日市のプラネタリウム(ギネス級)より良かった
- ・自分の星座が見ることが出来て良かった

今回は全14回投影し、総勢630名の方々が鑑賞されたそうです。このような有意義で楽しい時間を作って下さった実行委員のみなさんに感謝したいです。また来年も星空と宇宙が届くことを楽しみにしています!

作業療法課 朝倉 起己



当法人は「ファミリー・フレンドリー企業」として愛知県で登録されました。

愛知県では、ワーク・ライフ・バランスの推進に取り組む企業を応援しています。

当法人は、保育所の運営、育児休業から復帰後の育児短時間制度などを活かした勤務時間短縮へのフォロー、介護による柔軟な勤務時間変更などを行なっています。

これからも、職員が仕事と育児・介護・地域活動などを両立できるよう、働きやすい職場への取組みを実践していきます。



★ラジオ番組★

毎月 第2月曜日 19:00~19:30

MID-FM 76.1

ラジオパーソナリティ
共和病院 副院長 松下 直美

こころの病を持たれている方をはじめとする皆さまに温かいメッセージをお送りします。是非お聞かせください。

おもいやり共和のキラキラチアナイト

当院HPから過去の放送分も聴くことができます。



共和会理念

『優しい医療・楽しい職場』

私たちが目指す『優しい医療』とは

- まごころをこめてやすらぎと癒しの提供
- あなたの安心と希望ある地域生活の支援
- それぞれの専門性を活かした最良の医療・介護サービスの提供

私たちが目指す『楽しい職場』とは

- 毎日の出勤が楽しくなる職場
- 職員のレベラアップと仕事の充実が感じられる職場
- 職員の満足が患者様へ反映される職場

基本方針

～当院をご利用の皆様へ～

わたしたちは、利用者の皆様が安全かつ納得のいく医療を受けていただくことを目指し、それぞれの尊厳を大切に、思いやりのある医療を提供します。さらに、地域関係機関との密接な関係を保ち、地域の医療水準の向上に努めます。

1. あなたは、個人的な背景の違いや病気の性質などにかかわらず、必要な医療を受けることができます。
2. あなたは、医療の内容、その危険性および回復の可能性についてあなたが理解できる言葉で説明を受け、それを十分納得して同意したのちに、医療を受けることができます。ただし、必要に応じて主治医の判断によってご家族、代理の方にお話をする場合もあります。
3. あなたは、今受けている治療、処置、検査、看護・介護、食事その他についてご自分の希望を申し出ることができます。また、他の医療機関に転院したい場合は、必要な情報を提供致します。
4. あなたの医療上の個人情報は保護されます。
5. あなたの社会でよりよい生活が提供されるよう、地域関係機関との連携を図ります。



特定医療法人 共和会

共和病院

愛知県大府市梶田町2-123

診療科目

内科・消化器内科・呼吸器内科・神経内科
精神科・心療内科・循環器内科・肛門外科
放射線科・リハビリテーション科・歯科

TEL.0562-46-2222(代)

URL <http://www.kyowa.or.jp/>

お知らせ

12月29日(土)～1月3日(木)

年末年始につき外来診療を休診させていただきます。